

ナラ枯れ被害の総合的防除技術高度化調査（新規）

【平成20年度概算決定額 9,600(0)千円】

事業のポイント

ナラ枯れ被害の総合的かつ効果的な防除手法を開発します。

（ナラ枯れの状況）

- ・ 近年、カシノナガキクイムシが媒介するナラ菌によってナラ類等の樹木が枯損するナラ枯れ被害の発生地域が本州の日本海側を中心に拡大。
- ・ 平成18年度の被害面積は全国16府県で約834ha。
- ・ 平成18年度、新たに秋田県と愛知県においてナラ枯れ被害発生の報告。

政策目標

保全すべき松林が適切に保全されていると認められる都府県の割合100%
（森林病虫害等の被害の防止）

<内容>

ナラ枯れ被害が急速に拡大しつつあり、森林の有する水源かん養、土砂流出防止機能等の低下に加え、里山等の景観に与える影響も危惧されている地域においてモデル地域を設定し、以下の調査を実施します。

- (1) ナラ類の分布や林況とナラ枯れ被害の拡大（カシノナガキクイムシの伝播）状況を分析し、被害の発生危険度等の予測手法を開発、実証
- (2) 被害の発生危険度等の予測を踏まえ、水源かん養機能や景観等へのナラ枯れ被害の影響を面的に評価し、効果的に各種の防除手法を組み合わせる総合的な被害対策を策定するシステムを開発

<委託先>

民間団体

<事業実施期間>

平成20年度～22年度（3年間）

[担当課：林野庁研究・保全課]